

びんご 生と死を考える会

会報 第28号 第2版

発行 / びんご・生と死を考える会

電話 090-6842-7519 FAX (084) 923-1466

〒720-8522 福山市西町2丁目8番15号(福山YMCA内)

ホームページ / <http://www.eurus.dti.ne.jp/~kaz-n/bingo-seitoshiTOP.html>

E-mail : kaz-n@socialwork-jp.com



巻頭言

当事者の声

副代表世話人 長崎和則

新たな活動の息吹

「びんご・生と死を考える会」は、今生まれ変わろうとしています。がん患者の会から出発して、その後福山市にホスピスを作ろうという活動を始め、現在のびんご・生と死を考える会として3つの柱を中心に多様な活動をしています。

今後は在宅ホスピス活動をめざして、その夢は現実になりつつあります。

当事者を大切に！

活動を進めていくときに求められる考えとして、「素人性」の大切さを強く思います。この素人性をもっているのが当事者と呼ばれる人たちです。会員の中には、がん患者やその家族、死別体験者（以下、当事者という）などが多く参加されています。一方、医療関係者や社会福祉関係者も多くおられます。

活動をしていくときに忘れてはならないのが、先に挙げた当事者の声なのです。どうしてもこれらの人たちは、自らの声を表明されることが難しいのです。もちろん、さまざまなことで傷つき、疲れておられるでしょう。あきらめがあるかもしれません。

しかし、ホスピス活動を実際に行う時に、一番必要であり、なくてはならないのが当事者の声なのです。

困ったときには当事者に聞こう

ある自然保護の活動をしている人が言っているのを聞いたことがあります。それは、困ったときには当事者の声を聞こうということです。そして、どちらが良いか判断に困ったときに正しいのは、専門家の方ではなく当事者の方であるということです。

社会福祉でも、近年は専門職の存在ももちろん大切であるが、もっと当事者（高齢者や

28号の内容

巻頭言「当事者の声」 長崎 和則

[ホスピランティア養成講座 要約]
第1回「ボランティア活動とは」
長尾由紀子

お知らせ

報告

臨時役員会から

デーケン先生の

講演会と「古希を祝う会」

パッチ・アダムス講演会

10月の「支え合いの会」から

寄付・募金・寄贈本

予定・案内

森岡まさ子さんの「公開講演会」

忘年会のご案内

事務局から

ボランティア スタッフについて

第3回「ホスピランティア養成講座」

ご案内

編集後記

障害者)の声を聞こうという考えが強くなっています。専門家は確かに専門的な知識と技術を持っている。しかし、実際には体験していないのです。体験しているのは、当事者です。だから、当事者の意見に耳を傾け、当事者が納得し、満足できるような活動にしなくてははいけません。

その上で、専門職と協働することが求められるのです。これからの「びんご・生と死を考える会」の活動が良いものになるかどうかは、会に参加している当事者が発言し、それをきちんと専門職が受け止めることから始まると思います。それだけに、当事者の協力が得られることを心から願っています。

第 3 回(平成 14 年度)ホスピス ボランティア養成講座
講師: 講師: 鳥海洋治さん(福山市社会福祉協議会)

「ボランティア活動とは」 講演要旨

長尾由紀子



私がこの仕事をするようになって 11 年目になります。社会福祉大学在学中のことですが、ボランティア活動として学習障害児の世話をしあげた事があります。学習障害児には、知的な遅れはありませんので普通学級で勉学に励む事ができます。ただ、手に触れられても過敏に反応するとか、外から聞こえてくる音と、今ここで聞いている音との差異が識別出来ない為に、急に教室を飛び出したりするなどで、先生から、『もう少し家庭で躰をしてください』と言われてしまうことがあります。あるいは左と右との感覚が分からないとか、数学が良く出来ても漢字を書くことが出来ないなど。また、例えば山や木や線路、電車、線路上にいる人などが描かれた一枚の絵を見たときとしますと、一つ一つを識別できても、人が事故に合うかもしれないという総合的な判断力に欠けます。

そのような男の子の家庭教師も致しました。電車の大好きな子供でした。私はその子と仲良くなりたくて、近くにある大井川鉄道の SL を見せてあげることにしました。SL を見ることが出来た彼から初めて「有難う」という言葉を聞き、嬉しかった事を覚えています。これでその子が私を好きになってくれたと思ったのですが、勘違いでした。翌日、行ってみると私の顔を見ても知らん顔で、相変わらず一人で遊ぶのがっかりしました。

三年間なにも変わらず、心の通じない繰り返しの、辛い時間でした。感動のない時が過ぎたようですが、これが自分を変えるきっかけになっていました。このように辛い時もあり、感動もない、しかし振り返ってみると自身を変えていたというのがボランティア活動ではないかと思えます。

ボランティア活動を清らかなものと考えている人がいますが、それは誤解だと思います。取り敢えずボランティアと言って、子供にボランティアを経験さ

せれば子供が成長すると思込んでいる人もいます。また、障害をもっている人が物語やテレビドラマのように皆、いつも明るく頑張っているわけでもないのです。生真面目な人が聞けば眉をしかめるような話だって平気です。ですから、精神はどれも同じなのです。

ボランティアを頼む側にも誤った見方があります。お願いすれは何も言わなくてもバリバリ仕事してくれるという思い込みがあり、どうして良いがわからないボランティアが一日中立っていたという話があります。

私は社会福祉協議会で、ボランティア活動をしたい人や団体と、ボランティアを求めている人々との仲介をする手配師のようなものです。少々頼りなく見えるところが打って付けのようです。何故ならば、周囲の人に助けてやろうという気持ちを起こさせるようです。私のような立場では、知らず知らずに固定観念で仕事をしている時があります。

ボランティアに提言していただく事により、当事者には分からなかった事が見えてくるのです。それもボランティアの役割です。

今、私が参加している活動は一ヶ月に 4 千円の負担ですが、フィリピンの子供の里親制度に登録をしております。文通をしていますが一度ワークケアとして十日間、里子と暮らす活動の為にフィリピンに行きました。レイテ島で CCW の事務局のボランティア活動を見ました。住民達が貧しい生活の中で環境を少しでも良くしようと、子供の教育以外にも栄養改善の為に、地域の子供に親達が順番で給食を配るボランティアをしていました。医者に掛かることもできないので、畑に薬草を育て、煎じ薬をつくって公民館のような所に、誰でも飲むことができるようにしておきます。貧しくても一丸となって地域を良くして行く事に取り組んでいることが十

分にわかりました。ボランティアとは何かと明確な答がでないままに過ごしていましたが、この経験からこのようなものだと感じとりました。

一般的に必要な心がまえとして、相手が本当に望んでいる事を理解し善意の押し付けをしない。「手紙を書くね」「また、来るね」などと安請け合いをしない。自分の出来ない事ははっきりとさせ、細く長く無理をせず続ける。そして、何よりも絶えず学習し自分を成長させて活動の質を高める事が大

切だと思ひます。

私にとってボランティアとは、奉仕活動では仕え奉るようで自発性に欠けると思ひますので、奉仕活動と定義するのではなく、自らすすんで身近な問題に立ち向かい解決にあたる「自発性」が行動の根底にあるべきだと思ひます。

私にとってボランティアとは何か、永遠に解答はでないような気がします。

* *

お 知 ら せ

報 告

臨時役員会から：10月6日(日)午後2時~4時、YMCAにて行われました。

議題 / 結論は下記の通りです。

- 1. 会の運営に関して / 会も次第に大きくなっているんで年に1度の総会を持って、行事報告、決算報告、行事予定、予算審議、などをしていく。
- 2. 会の役員 / 現状の陣容で進めていく。特に、役員の中にはガン治療中の方がおりますが、闘病者の代表としてお願いする。
- 3. 10周年記念行事について / 平成15年は当会創立10周年の節目なので記念講演会を企画する。
 会場：リーデンローズ
 時期：平成15年5月11日午後を予約
 講師：柳田邦男さん
 テーマ：折衝中
- 4. ホスピスボランティア養成講座の展開について / 1) 受講者の中から希望者を募り、福山市社会福祉協議会に登録して自主的なボランティア活動の道をつける。
 2) 会としてもボランティア活動の出来るホスピスを発掘する。

- 5. 訪問看護ステーションの立上げ /
 1) 福山YMCAの福祉事業計画の中に織り込んでいただく。2) 会として準備委員会を作り設立の準備に入る。

注：事務局から
 「会が支援する在宅ホスピスのための訪問看護ステーション準備委員会」を第2、第4水曜日の夜7時から福山YMCAで始めています。関心のある方はご自由に参加してください。(開催日時は変わることもあり、事前に確認して下さい)
 これと併行して、代表世話人の数野先生は、市内の個人病院と診療所と、訪問看護ステーションの協力を得て、在宅ホスピスケアを始めました。患者様の希望があればボランティアの方々にもご協力頂く予定です。

- 6. ボランティアスタッフ / 催し物の世話役、会報の郵送などの作業に広く会員の参加と協力を求めていく。

デーケン先生の講演会と「古稀を祝う会」
 去る7月31日、デーケン先生の講演会(演題「生きがいとユーモア」、主催：広島県学校保健会養護教員部会、於・リーデンローズ)が開催されました。その後、当会主催で先生の古希を祝う会を催しました。先生を囲んで食事を取りながら講演とは一味違った懇談がもたれました。写真はそのときの記念写真です。



パッチ・アダムス講演会

去る 9 月 1 日、パッチ・アダムス氏の講演会(演題「高齢社会を豊かに生き抜く知恵・パッチと語ろう 21 世紀の介護 - 愛と笑いと喜びを - 」、主催：NPO 21 世紀 癒しの国アリス、於・岡山)がありました。会場の定員の関係で申込んだが参加できなかった方が多かったようでした。

写真は講演会後の懇親会で当会の代表世話人数野先生とパッチの一コマです。



10 月の「支え合いの会」から(毎月第 2 土曜日 14 時～)

柳田邦男さんによる「医師にかかるときの 8 ケ条」について解説と質疑応答がありました。

1. 医師の名前をフルネームで聞く。専門も確認
2. 聴きたいことをメモしておく
3. わからないことは遠慮しないで聞く
4. 大事なことは必ずメモ
5. 大切な説明があるときは家族、友人も同席する
6. 詳しく知りたいときは、一般診療とは別に説明の時間を求める
7. 自分の仕事、家族の事情などを主治医に伝える。進行がんの場合は死生観やリビング・ウィル(延命処理を望まない生前の意志表示)も
8. セカンドオピニオンを求めたいときは、主治医に診断データを貸し出すように求め、同意を得る

このほか、次の解説もありました。

「医者にかかる 10 ケ条」 ささえあい医療人権センターCOML から

「危ない医療から身を守るための 20 のアドバイス」 いい治療わるい治療の見分け方から

「医療者 6 か条」 柳田邦男さんによる

寄付・募金

寄付をお寄せいただいた方がたのお名前です。有難うございました。略敬称、五十音順

期間：平成 14 年 4 月～ 9 月

卜部眞次	沖夕起	数野博	加藤秀子	黒木文生枝	佐藤芳江	徳永敬
鳥海洋治	中沢じゅん子	箱田勝子	藤井俊彦	ライオス・クラブ 336C2R1Z		古川勝博
ファーマシー(松岡、内海)		森田美智代	矢作久子	渡辺孝子		

この他、匿名の方が多数いらっしゃいます。

寄贈

「日本人のための宗教言論」 小室直樹 著 瀬尾さんから 平成 14 年 10 月 12 日

予 定・案 内

公開講演会

講師：森岡まさ子さん

演題：「出会いは宝、91 歳の出発」

日時：11 月 3 日(日)午後 3 時 30 分～午後 5 時

場所：福山グランドホテル(福山市西町 2-7-1)
= 084-921-5511

参加費：会員 500 円、一般 1000 円

申込み、問合せ先：

「びんご・生と死を考える会」事務局

電話 = 090-6842-7519 fax = 084-923-1466

忘年会

日時：12 月 14 日(土)18 時 30 分から

会場：サンピア

会費：3000 円(バイキングを予定)、飲み物(ソフトドリンク、ビール、水割り)は自己負担
お気軽にご参加下さい。参加者一人づつ、ひとこと(今年の総括、来年の希望、など)を話し合っ
て望年とします。

申込みは事務局まで、直接か留守電へ (090-6842-7519)、お名前と電話番号をご連絡ください。

事 務 局 か ら

ボランティア スタッフについて

会員の皆様から受付のお手伝いや、会場の準備、後片付けの申し出を戴きます。有難いこと
と思っています。受け入れ態勢がまだ整ってない
ので折角のご好意に失礼な対応をしている
かもしれません。以下にボランティア スタッ
フの取組みについて若干の説明を記します。

今までは、会の実務は創設以来の限られた会
員、数野先生、ちょう外科の看護婦さんなどが
仕事の合間にされていました。皆さん、お忙し
いばかりです。特に数野先生は「ちょう外科」
院長の立場、診療実務、往診、インターネット医療相
談、学会出席、講演会出席、当会の対外折衝、
等等など超多忙です。

従って、当会の催し物の準備も、関連資料は
数野先生が朝か夜に作り、それを看護婦さんが
勤務を終えた後、あたふたと会場に持ち込むの
がほとんどです。

私もこの状況を見ていて、会の運営作業にも
っと会員の力をお借りしてはと提案しました。
そこで二、三の方に声を掛け、試験的に発送作
業を一緒にやっていただき、支障なく作業が進
むことを確認しました。その結果、8月のアン

森岡まさ子さんのプロフィール

広島県上下町に世界に知られたコースホス
テルがあります。経営するのは、世界の
ママと慕われる森岡まさ子さん、お歳は 92
歳！「何事も前向きに、積極的に。毎日 喜
ぶこと、笑うこと。そして昨日より今日」
と語る森岡さんに、30 万人のホステル利用
者との出会いの中で、相手に手渡してきた
もの、そして、受け取ったものについて、
お話をうかがいます。

ケートにスタッフ参加の調査項目が追加され
たわけです。

アンケートの結果は予想以上のご賛同を戴き
ました。有難うございました。

本件は役員会で承認され、これから本格的に
スタッフをお願いすることになります。

ボランティア スタッフにやっていただきた
い仕事は当面、次のようなものが挙げられます。

催し物関連：チラシの準備と配布、会場の
準備と片付け、受付、会計整理

会報関連：原稿の作成、ワープロ入力、編
集、校正、印刷、折りと差し込み、封筒詰
め

資料整理：書類や記録の整理、図書やテー
プの整理と貸出し管理、講演のテープ起
し
その他

ところが、実際にスタッフの皆様へ声を掛け
ようとする、連絡方法(ブライバシーを含む)、仕
事の段取り(何を、どのように、いつまで)など、
作業の頼み方の難しさに直面しています。少し
ずつ慎重に進めますのでよろしくご協力くだ
さい。
(仁茂田 記)

第 3 回(平成 14 年度)ホスピスボランティア養成講座のご案内

回	講 座	備 考
1	9月28日(土) 14時～17時 演題 : ボランティア活動とは 講師 : 鳥海洋治さん 福山市社会福祉協議会 会場 : 福山市すこやかセンター	地元で活動している様々なボランティアグループを知ることが出来ます。
2	10月26日(土) 14時～16時 おわり 演題 : 人生の終末に大切なもの 講師 : 沼野尚美さん 前・六甲病院ホスピスチャレン 会場 : 福山市すこやかセンター	沼野さんには、丁度1年前に「終末期における心のケア」と題して講演を戴きました。「もう一度聞きたい」というアンケート希望も多かったのですが、この度、福山ワラワライオンズクラブの主催で企画され、本会にも無料参加の声をかけて頂いたものです。
3	11月30日(土) 14時～17時 演題 : パストラルケアとボランティア 講師 : 田中百合子さん 菅由紀子さん、石田秀子さん 会場 : 福山YMCA	地元で活動しているボランティアの方々の実体験を話していただきます。
4	2月1日(土) 14時～17時 演題 : 家族を失った人の心と魂のケア 講師 : 高木恵子さん 兵庫・生と死を考える会 会長、英知大学教授 会場 : 福山YMCA	阪神淡路大震災で家族を失われた方たちのケアなど、豊富な体験が聴けます。
5	2月22日(土) 14時～17時 演題 : ホスピスが持つ生産的な意味 講師 : 小沢竹俊さん 横浜聖生病院緩和ケア病棟 会場 : 福山YMCA	ホスピスでの仕事に打ち込まれている青年医師の分かりやすいホスピスのお話です。
6	3月29日(土) 14時～17時 演題 : 仏教から見たホスピスボランティアのかかわり 講師 : 鎌田哲成さん 隋泉寺僧侶(広島市安芸区) 西本願寺ビハラー専門 会場 : 福山YMCA	ビハラー活動に取り組み、広島に出来たホスピスで活動している僧侶のお話が聴けます。

原則として前 6 回すべてに参加される方を募集します。
参加費は
会員：無料、
一般：2500 円(全 6 回)
個別参加は 500 円/回。
すべての講座を受講された方には修了証をお渡し致します。
講演の後、グループ討議と質疑応答を行います。(第 2 回は講演のみ)
会場は福山 YMCA と福山市すこやかセンターです。
第 2 回は福山ワラワライオンズクラブ主催で聴講は無料です。

編 集 後 記

猛暑が去って、あっと言う間に秋冷の候になりました。皆様お元気でしょうか。YMCA の理解もあって、新しい拠点で会の活動も軌道に乗りました。養成講座も第 3 回から会場が YMCA になります。「支え合いの会」など、気軽にお越し下さい。

今回も長尾さんに講演要旨の作成をお願いしました。お礼申し上げます。前号(27号初版)でデーケン先生のお歳を7歳多く間違えました(喜寿 古希が正しい)。先生には7年後も元気でご活躍を期待することでご了解を頂きました。

「びんご・生と死を考える会」活動の3つの柱

1. **死への準備教育** 生まれた以上死なない人はいません。人は自らの死に直面したり、身近な人の死に遭遇したとき、初めて死について、そして生きることについて考えます。年に一度、一日でもよいから死について考える日を作ることを提案します。
2. **ホスピス運動** ホスピスが目指すものは、患者さんと家族を中心としたチーム医療の考え方です。どの医療現場でも必要とされるものですが、福山にも緩和ケア病棟やホスピスを作りましょう。
3. **死別体験者への援助** 身近な人の死に遭遇したとき、人は何種類かの心の反応を示します。それを学ぶことによって死別体験者の心が理解でき、自らも救われます。